

次の文を読み、問 1～3 に答えよ。

70 歳女性。腹痛と食欲不振を主訴に来院した。

現病歴：1 週間前から腹痛、下痢、嘔吐が出現した。3 日前に近医を受診するも症状は改善しなかった。その後徐々に食事と水分摂取が困難となったため、前医を受診した。前医で腹部単純 CT (A) を施行し、高次医療機関での治療が必要と判断され、当院に転院搬送された。

既往歴：慢性腎不全、統合失調症

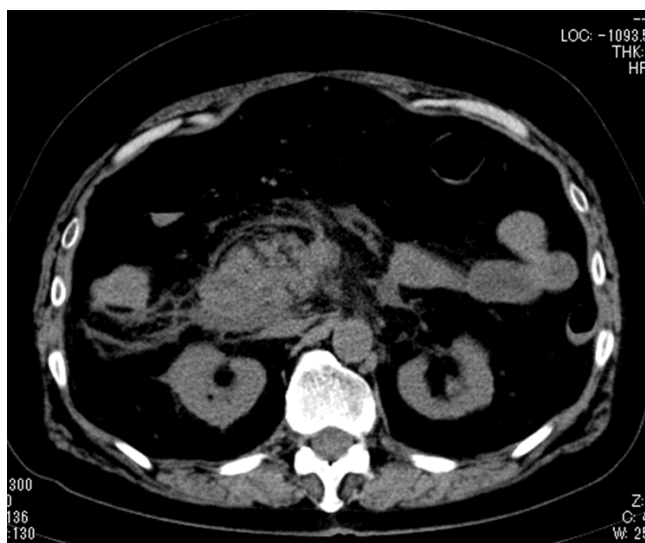
生活歴：喫煙歴なし、飲酒歴なし

現症：意識レベル JCS I -2, 身長 136.4 cm, 体重 38.5 kg, 体温 36.9 °C, 脈拍 92 /分, 血圧 130/79 mmHg, SpO2 91 %

心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部膨満、軟で、心窩部に軽度圧痛あり。嘔気はあるが嘔吐はない。筋性防御なし、反跳痛なし。下腿浮腫なし。

検査所見：赤血球 300 万/ μ L, Hb 11.1 g/dL, Ht 32.1 %, 白血球 9500 / μ L, 血小板 15 万/ μ L, 血漿総蛋白 6.0 g/dL, アルブミン 2.5 g/dL, CK 224 IU/L, AST 49 IU/L, ALT 183 IU/L, LD 404 IU/L, ALP 214 IU/L, γ -GTP 118 IU/L, アミラーゼ 190 IU/L, クレアチニン 2.13 mg/dL, 尿素窒素 110 mg/dL, Na 133 mEq/L, K 3.8 mEq/L, Cl 101 mEq/L, Ca 8.3 mg/dL, CRP 22.27 mg/dL, PH 7.395, PaO2 66.1 Torr, PaCO2 31.6 Torr, BE -5.0

前医で施行された腹部単純 CT を次に示す。



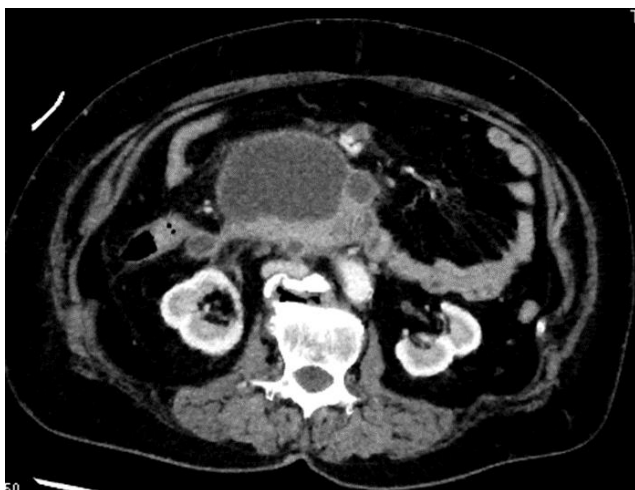
問 1. この疾患の重症度判定に関係ないのはどれか。1 つ選べ。

- a. Base Excess (BE)
- b. 尿素窒素
- c. アルブミン
- d. CRP
- e. 年齢

問 2. 本患者は前述の重症度分類を用いて重症と判断した。現時点での対応で適切でないのはどれか。1つ選べ。

- a. 絶食
- b. 大量輸液
- c. 抗菌薬投与
- d. NSAIDs 投与
- e. ナファモスタットメシル酸塩投与

その後の経過：入院 38 日目、全身状態は改善してきたが食欲不振が改善しなかったため再度腹部造影 CT を施行した。腹部造影 CT を次に示す。



問 3. この疾患に対する治療として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a. 超音波内視鏡下胆道ドレナージ (EUS-BD)
- b. 超音波内視鏡下嚢胞ドレナージ (EUS-CD)
- c. 経皮経肝胆嚢ドレナージ (PTGBD)
- d. 内視鏡的ネクロセクトミー
- e. 膵全摘術

解答

問 1. c

問 2. d

問 3. b, d

次の文を読み、問 1,2 に答えよ。

78 歳男性。定期健診の上部消化管内視鏡検査で胃前庭部小弯の病変を指摘されて来院した。10 年前に大腸癌の手術、4 年前に早期胃癌に対する ESD とピロリ菌の除菌を行った既往がある。

身長 157.7 cm, 体重 53.2 kg, 体温 36.7 °C, 脈拍 57 /分, 血圧 127/57 mmHg, SpO2 97 % (room air)

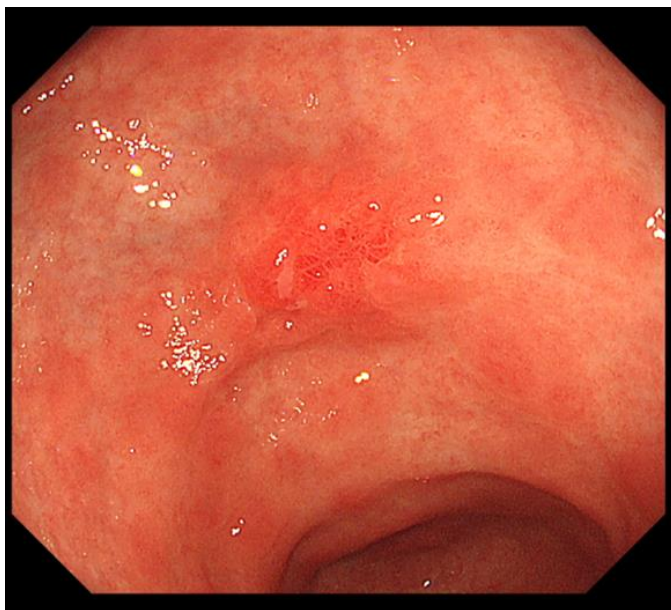
意識は清明。眼瞼結膜の貧血は見られない。腹部は平坦, 軟で圧痛はない。

血液検査所見: 赤血球 423 万/ μ L, Hb 14.3 g/dL, Ht 41.3 %, 白血球 4160/ μ L, 血小板 23.5 万/ μ L

上部消化管内視鏡で胃前庭部小弯側に 18mm 大の病変をみとめ、生検では低分化腺癌であった。

全身の CT ではリンパ節転移と遠隔転移は認めない。

上部消化管内視鏡の画像を次に示す。



問 1. 壁深達度の評価に有用な検査はどれか。2 つ選べ。

- a. 経鼻内視鏡
- b. 拡大内視鏡
- c. 超音波内視鏡
- d. ダブルバルーン内視鏡
- e. カプセル内視鏡

問 2. 本症例の ESD の適応を決めるうえで重要でない項目はどれか。1 つ選べ。

- a. 部位

- b. リンパ節転移の有無
- c. 壁深達度
- d. 腫瘍の分化度
- e. 潰瘍の有無

解答

問 1. b, c

問 2. a